

# アビガン国内第Ⅲ相開始

新型コロナ対象 6月末終了目指す

富士フィルム富山化学

富士フィルム富山化学は、新型コロナウイルス感染症を対象に抗インフルエンザ治療薬「アビガン」(一般名：ファビピラビル)の国内第Ⅲ相試験を開始した。目標症例数は100例で、6月末に試験終了を目指す。同剤の有効性・安全性が確認された場合、承認申請を行う方針だ。

アビガンは、国内では抗インフルエンザウイルス薬として承認されている薬剤。新型・再興型インフルエンザの発生時に、他の抗インフルエンザウイルス薬が無効・効果不十分と判断された場合、使用が検討される。

ウイルスのRNAポリメラーゼを選択的に阻害することで増殖を防ぐ特徴を持ち、インフルエンザウイルスと同種のRNAウイルスである新型コロナウイルスに対しても効果が期待されている。国内第Ⅲ相試験で

は、新型コロナウイルス感染症患者を対象に、アビガンの有効性・安全性を検討することになる。

政府が年度内に約200万人分の備蓄を目指している。富士フィルムは政府からアビガンの増産要請を受け、3月上旬から同剤の生産を開始し、7月には約10万人分、9月に約30万人分の生産体制実現に取り組んでいる。

一方、アビガンが未承認の米国ではボストンのブリガム・アンド・ウイメンズ病院、マサチューセッツ総合病院、マサチューセッツ州立大学メディカルスクールの3施設で第Ⅱ相試験を実施する。政府では海外での治験拡大に向け、適正使用や日本へのデータ提供などを条件に、イラン、インドネシア、チェコなど20カ国にアビガンを無償提供する方針を示している。

# 店舗数、売上高20年連続増

## 19年度ドラッグストア実態調査

JACDS

日本チェーンドラッグストア協会(JACDS)は、2019年度のドラッグストア実態調査結果を公表した。それによると、全国ドラッグストア総店舗数は2万0631店舗、総売上高(推定値)は7兆6859億円となり、店舗数、売上高共に調査開始から20年連続の増加となった。

実態調査は00年度を初回とし、毎年同じ方法で調査を実施すること

で、日本のドラッグストア業態の動向と変化を明らかにすることが目的。20回目となる今回の調査期間は昨年10月16日～今年1月31日で、JACDS正会員企業121社中、119社が回答(有効回答率98.3%)。これに加えて、会員外企業280社も調査した。主な調査結果を見ると、総店舗数は2万0631店舗となり、初めて2万店舗を突破した18年度調査より403店舗増加した。規模別店舗数の構成比は、150

坪以上300坪未満が43.9%で最も多く、以下、60坪以上150坪未満が19.6%、300坪以上が18.2%、30坪未満が9.9%、30坪以上60坪未満が8.3%と続いた。

総売上高は7兆6859億円と、前年度から5.7%の増加となった。カ

テゴリー別の全国売上高は、調剤・ヘルスケアが2兆3970億円(5.3%増)、ビューティケアが1兆5672億円(3.7%増)、ホームケアが1兆6178億円(5.0%増)、フーズ・その他が2兆1039億円(8.1%増)となっている。

考えよう!

## キャリアデザイン

### 独立するというキャリア

①

るようです。

では、実際に独立するにはどんなことが必要なのでしょう。資金や人脈等、しっかりと計画を立て、緻密に準備をしなければ難しいと想像される方が多いと思います。ただ、実際に独立した方々に話を聞いてみると、意外にも、そう計画的ではないケースも少なくないことがわかります。

かくいう私も30歳の時に、“思わず”独立しました。永く勤務しようと思った会社を、様々なことが起こって退職しましたが、その時には具体的に「こういう会社を作ろう」としっかり考えて動いたわけではあり



キャリア・ポジション社長

西鶴 智香

というキャリアデザインを持って働いていたので、そのイメージから離れることに不安を感じていたのが実際です。

結局、会社を辞めた途端に、以前の取引先や先輩から、今まで経験してきた人事コンサルタントの仕事に依頼されたことがきっかけで、転職活動を始める前にいつの間にか「フリーランスの西鶴さん」と認識されていました。その後、様々な仕事が舞い込んできては引き受け、報酬を受け取りました。意図せず独立して仕事をする状態になり、その後36歳の時に法人組織にして業務を拡大しました。

以上が簡単に言うと、私の独立ストーリーです。私の場合はコンサルタント業なので、多くの資金は必要なかったのですが、薬剤師さんが「自分の薬局を持ちたい」という場合は、やはりある程度の資金が必要です。次回は、必要な資金と人脈についてお伝えします。

# “患者”と“医療者”による本当のチーム医療とは!?



# 患者参加型医療

本当のパートナーシップの実現を目指して

医療のこれからのあるべき姿である「患者参加型医療」。その考え方を広め、実現するために、患者と医療者双方の立場から“わかりやすさ”をコンセプトに概念や課題などを詳述した一冊。

【編著者】岩堀 禎廣

【著者】鈴木 信行  
有田 悦子

【目次】

第1章 患者参加型医療とは?

第2章 なぜ、患者は薬を飲まないのか?

第3章 患者視点のない医療者は生き延びれない

第4章 患者の想いを共有するために

～薬剤師と患者のコミュニケーション～

第5章 最初の一步は薬剤師から!

A5判/104頁/定価1,800円+税

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<https://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。